

科目名		社会科学Ⅰ (Social Science Ⅰ)							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第5学年	電気工学科 物質工学科	学修	1 単位	必修	講義	後期 100 分/週	45 時間		
担 当 教 員		【常勤】高橋正和							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達 目標レベル	1)「人間とは何か」を問い、人間存在についての知見を深める。 2)「存在」についての考察に基づいて、その視点から諸問題を追及できる。 3)「言葉」と「認識」について、その密接な関係に関する理解を持ち、言語への哲学的なアプローチができる。 4)「科学と真理」を科学哲学的な知見を基に、考察できる。 5)地球文明的な視点と科学技術の史的展開を軸に、多元的な幅広い考察を展開できる。								
学習・教育目標	(F)		JABEE基準1(2)		(a)				
関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材									
関連科目	現代社会、倫理、法学								
教科書	適宜、プリントを配布し、講義の参考となる文献を具体的に例示する。								
補助教材等									
達 成 度 評 価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	◎		◎					/
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○		◎					
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】									
学 習 上 の 留 意 点 お よ び 学 習 上 の 助 言									
哲学の探求する知は、科学的知識とも、また常識的知恵とも異質である。哲学は自然らしさを装ってそこにあるものに、あらためて考察のまなざしを向ける。たとえば、普段最も身近な「あること」(存在)という事態そのもの、ことば、身体、知覚経験については、無自覚な態度を取ったり、また非反省的に遂行されているがゆえに、自然的なあり方からは隠されている。そのために、それを自覚的に受け止め、それを意識化しなければならない。また知ることそのことの構造、思考、判断、否定、可能世界について哲学的なアプローチを試みる。それらの中心的な哲学的問題を検討することを通して、「人間とは何か」を根本から探求することが本講義の全体的テーマとなる。									

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	はじめに	哲学とはどのような学問か。人生観、あるいは世界観という捉え方からはじめて、哲学像をきちんと持つことができる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
2	「存在」をめぐる考察	存在への問い(ハイデガー、ウィットゲンシュタイン、ライプニッツ、アリストテレス)を取り上げて解説する。それとあわせて、存在問題を哲学の根本問題として理解できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
3	存在と認識	存在理解と人間の本質、自然システムと認識システムの相違と関連性について、基本的な理解をもつことができる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
4	ことばと認識(1)	可能性を開くことばの力、否定と可能世界について説明できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
5	ことばと認識(2)	見分け構造と言分け構造の違いについて理解し、人間とその文化のもつ特徴と意義を説明できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
6	ことばと認識(3)	唯言論、唯物論、唯心論、唯脳論に関連した問題点を理解できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
7	カントの認識論	カントの主張する直観－思考、感性－理性の認識構造、およびそれがもたらすコペルニクス的転回の画期的な意義を理解できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
8	中 間 試 験		
9	試験返却・解答解説 人間学思想(1)	試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 (1) 人間原理論と宇宙論について理解できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
10	人間学思想(2)	(2) AI(人工知能)の基本問題を理解し、それと人間知性の相違と本質的特徴をつかむことができる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
11	人間学思想(3)	(3) M. シューラーの哲学的人間学の基本的主張を把握し、人間とは何かについて哲学的なアプローチができる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
12	人間学思想(4)	(4) 生物学的人間学がとなえる思想の基本を理解できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
13	科学哲学的考察(1)	西欧近代科学の成立の思想的背景について理解し、科学技術が近代社会の形成に果たした役割を知ることができる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
14	科学哲学的考察(2)	T. クーンのパラダイム論について説明できる。	配布プリントとノートを見て復習し、小レポートを作成し、次回提出する。
	期 末 試 験		
15	試験返却・解答解説 授業評価アンケートを行う。	試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。後期の学習事項のまとめを行う。	
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			25 時間
自学自習			20 時間